

英国のリーディング・ウェル・プログラム
～認知症のための本の処方箋プロジェクトを中心に～

Reading Well Books on Prescription for Dementia in the United Kingdom

呑海沙織[†]
DONKAI Saori[†]

抄録: 認知症はどの国においても大きな社会的課題であり、地球規模で刻々と増加している。この社会的課題に立ち向かうためには、あらゆる領域からのアプローチが必要であり、図書館も例外ではない。本稿は、先導的な英国における図書館の認知症に関する取り組みとして、リーディング・ウェル・プログラムの中から「認知症についての本の処方箋プロジェクト」を取り上げ、図書館における認知症サービスについて考察を行うことを目的とする。

同プロジェクトを主導するリーディング・エージェンシーや、認知症に関する取り組みを実施しているサンダル図書館、ノーフォーク・アンド・ノリッチ・ミレニアム図書館を訪問し、インタビュー調査を行うとともに、収集した関連資料を調査し、その実態を明らかにした。また、同プロジェクトの課題として、(1) 推薦本リストの改訂頻度、(2) 推薦本の難易度、(3) プロジェクト名称の3点を指摘した。

キーワード: 公共図書館, 読書, 認知症, 認知行動療法, 英国

Keywords: Public libraries, Reading, Dementia, Cognitive behavioral therapy, United Kingdom

1. 研究背景と目的

認知症はどの国においても大きな社会的課題であり、地球規模で刻々と増加している。年間 990 万人、3.2 秒に 1 人が認知症を発症しているとされる。世界の認知症人口は約 4,680 万人(2015 年現在)、2050 年までに、約 1 億 3,150 万人になると推計されている¹。

このような状況下において、近年、認知症への取り組みやその考え方に大きな変化が起きている。「認知症にやさしい (Dementia Friendly)」² という概念である。ここでいう「認知症にやさしい」とは、「認知症の人に優しくすること」ではない。「認知症に伴う課題を『疾患』にのみ帰結させて医療や介護のみの文脈でとらえるのではなく、認知症の人とその周辺の人、あるいは環境との相互作用により顕在化する社会的な課題としてとらえ直」³することである。

超高齢社会と図書館研究会では、「認知症にやさしい」とは、「あらゆる人が認知症について知り、理解することで、認知症の人が『理解されている』『存在価値がある』『地域に貢献することができる』と感ずることができる状態を意味」⁴ するとしている。認知症の人「に」、何をどのようにできるのかという、認知症の人を「目的語」に置くにとどまらず、認知症の人「が」、どのように感じ何ができる／するのかという、認知症の人を「主語」としてとらえるところに特徴的がある。

このような「認知症にやさしい」というアプローチは、世界中に広まっている。例えば、国際アルツハイマー病協会 (Alzheimer's Disease International: ADI) による報告書『認知症にやさしいコミュニティ (第 2 版)』⁵ では、ヨーロッパやアメリカ合衆国だけでなく、アジアや中東、アフリカ諸国の認知症にやさしいコミュニティの事例が報告されている。医療や介護、福祉領域にとどまらず、認知症の人や家族、教

[†] 筑波大学 図書館情報メディア系

育，行政，交通，公共施設，企業，NPO などあらゆる領域で実施されている。

このような取り組みを先導するイングランドでは，認知症アクション連盟（Dementia Action Alliance: DAA）に，6,500 以上の組織が加盟し，さまざまな領域の組織が協働して認知症に関する取り組みを行うとともに，人的ネットワークを形成している。図書館も例外ではなく，英国の国立図書館である英国図書館（British Library）をはじめ，70 以上の図書館や図書館ネットワークが DAA に加盟している。

英国の公共図書館では，認知症に関する図書のコーナー設置や，回想法に使用するツールの提供，認知症に関する全国的な読書プログラムなどが展開されている。

翻って，高齢化率世界第 1 位である日本の図書館サービスは，認知症に関してどのような取り組みを行っているのだろうか。出雲市立ひかわ図書館（島根県）や田原市立図書館（愛知県），瀬戸内市民図書館（岡山県），京都市醍醐図書館（京都府）などによる回想法への取り組み，川崎市宮前図書館（神奈川県）による「認知症の人にやさしい小さな本棚」の設置，鳥取県立図書館や名古屋市図書館（愛知県）の音読教室など，少しずつ取り組みが広がっているものの，組織的に，あるいは政策的に実施している図書館は数えるほどしかないというのが実情である。

そこで本稿では，先導的な役割を果たす，英国の図書館の認知症に関する取り組みとして，リーディング・ウェル・プログラムの中から「認知症についての本の処方箋プロジェクト（Reading Well Books on Prescription for Dementia）」を取り上げ，図書館における認知症サービスについて考察を行う。

2. 研究手法

本研究では，英国の認知症に関する施策や図書館サービス，リーディング・ウェル・プログラムの実態を明らかにすることを目的として，下記のように，現地調査およびインタビュー調査を実施するとともに，関連資料を収集した。

2015 年

- 2 月 9 日 イーストボーン図書館（Eastbourne Library）
- 2 月 10 日 エイジ・エクスチェンジ回想法センター（Age Exchange Reminiscence Centre）
- 2 月 12 日 ノーフォーク・アンド・ノリッチ・ミレニアム図書館（Norfolk and Norwich Millennium Library）

2016 年

- 9 月 13 日 キングス・カレッジ・ロンドン老年学研究所（Institute of Gerontology, King's College London）
- 9 月 14 日 サンドル図書館（Sandal Library）, North Yorkshire
- 9 月 15 日 ノッティング・ヒル・ゲート図書館（Notting Hill Gage Library）, London
- 9 月 16 日 ケント歴史・図書館センター（Kent History and Library Centre）

2018 年

- 3 月 3 日 ノッティング・ヒル・ゲート図書館（Notting Hill Gage Library）, London
- 3 月 7 日 サンドル図書館（Sandal Library）
- 3 月 8 日 リーディング・エージェンシー（Reading Agency）, London

3. 英国の認知症政策

本章ではまず，英国の認知症政策について概観する。英国の健康省（Department of Health）は，2009 年 2 月に『認知症とともに良い生活／人生を：認知症国家戦略（Living well with dementia: A National Dementia Strategy）』⁵を発表した。英国の認知症に関する 5 箇年の国家戦略である。

この国家戦略では，下記のように，3 つの基本理念のもとに，17 項目の政策目標が定められた⁶。

【基本理念】

- (1) 医療・介護に携わる専門家，ならびに一般市民を含む非専門家，双方への認知症に関する正しい理解の普及
- (2) 適切な診断を早期に受けられ，その後，質の高い包括的な支援・治療が受けられるよ

うなサービスモデルの整備

(3) 当事者ならびにケアラーのニーズに基づいた幅広いサービスの実現

【政策目標】

- 目標 1: 一般市民および専門家の認知症の気づきと理解を改善する
- 目標 2: すべての認知症の人々に良質な早期の診断・支援の機会を提供する
- 目標 3: 認知症の診断を受けた人とそのケアラーに良質な情報を提供する
- 目標 4: 診断後のケア・支援・助言へのアクセスを容易にする
- 目標 5: 認知症の人とその家族を地域で直接的に支援するピアサポートの仕組みとネットワークを構築する
- 目標 6: 個別的ニーズに柔軟かつ適切に対応できるように在宅サービスを改善する
- 目標 7: ケアラー支援戦略を実施する
- 目標 8: 総合病院における認知症ケアの質を改善する
- 目標 9: 認知症の人のための中間ケアサービスを改善する
- 目標 10: 認知症の人とケアラーを支援するための住居支援、居宅関連サービス、遠隔医療の可能性を検討する
- 目標 11: ケアホームにおいて認知症とともに良い生活が送れるようにする
- 目標 12: 認知症の人の終末期のケアを改善する
- 目標 13: 認知症の人にかかわる可能性のある従業員に基礎的な研修や継続的な教育の機会を提供する
- 目標 14: 認知症のための協同コミッションング戦略を行う
- 目標 15: 医療・介護サービス、およびそれらの連携が機能しているかについての評価と制御を改善する
- 目標 16: 研究によるエビデンスとそのニーズを明らかにする
- 目標 17: 国および地方において国家戦略の実施のための効果的な支援を行う

翌 2010 年、アルツハイマー・リサーチ・ト

ラストとオックスフォード大学医療経済研究センターは、『認知症 2010：英国における認知症の社会的負担および関連研究助成

(Dementia 2010: The economic burden of dementia and associated research funding in the United Kingdom)』⁷を公表した。この報告書では、英国の認知症患者は、人口の 1.3%にあたる 82 万 1,884 人とされ、医療（プライマリケア、緊急救命室、外来、入院、薬剤、プライベートケア）に係るコストが年間約 12 億ポンド、ソーシャルケア（長期介護）が約 91 億ポンド、それ以外（インフォーマルケア、死亡関連、罹病関連）が約 124 億ポンド、計約 227 億ポンド（150 円換算で約 3 兆 4,000 億円）と算出された。

なお、認知症に次いで社会的コストが高いとされる疾病は、がんで年間約 120 億ポンド、次に心疾患で約 80 億ポンドと推計されており、認知症の社会的コストが突出していることがわかる。認知症にかかる社会的コストは今後さらに増加すると推計されており、このような社会的コストをおさえるには、認知症予防や進行抑制の手立てを行うことが急務である。

英国ではこのような認知症に関する社会的インパクトをふまえ、全国的に認知症に関する政策が展開されている。なお英国では、医療は国が国民医療サービス（National Health Service: NHS）のもとで、社会福祉（Social Care）は自治体が責任を持つシステムになっている。公共図書館も基本的にこの枠組みの中で、アルツハイマー協会などと協働し、認知症に関する取り組みを行っている。

4. リーディング・ウェル・プログラム

本章では、リーディング・ウェル・プログラムについて概観する。リーディング・ウェル・プログラムは、リーディング・エージェンシー（The Reading Agency）を中心とした、健康・福祉のための読書を推進する英国の全国プロジェクトである。アーツ・カウンシル・イングランド（Arts Council England）の助成によるプログラムである。

リーディング・ウェル・プログラムは、2013 年 1 月に、図書館長協会（Society of Chief

Librarians: SCL) ⁸ によって発表された公共図書館の基本的サービス指針であるユニバーサル・オファー (Universal Offers SCL) の一環として位置づけられている。ユニバーサル・オファーは、公共図書館にとって不可欠なサービスとして、健康 (Health)、読書 (Reading)、情報 (Information)、デジタル (Digital) の4領域があげられていたが⁹、同プログラムは健康領域にあたる。

リーディング・ウェル・プログラムは現在、2系統のプロジェクトに分かれている。「本の処方箋 (Books on Prescription)」と「気持ち上がる本 (Mood-boosting Books)」である。

4.1 本の処方箋プロジェクト

「本の処方箋プロジェクト」は、医療と図書館の協働プロジェクトである。医療の専門家によって評価された本のリストを提供するとともに、医療従事者が本を「処方」し、図書館が本を「提供」するという全国的プログラムである。このスキームは、152のイングランドの図書館行政庁 (Library Authorities) のうち、98%で採用されている¹⁰。

現在、本の処方箋プロジェクトは、(成人の)メンタルヘルス (Mental Health)、認知症 (Dementia)、青少年のメンタルヘルス (Young People's Mental Health)、長期療養 (Long Term Conditions) の4種がある。表1にそれぞれの開始年および、イングランドの図書館行政庁での採用率をまとめる¹¹。

表1 本の処方箋プロジェクトの種別と開始年

種別	開始年	採用率
(成人の)メンタルヘルス	2013年	96%
認知症	2015年	93%
青少年のメンタルヘルス	2016年	95%
長期療養	2017年	-

注：イングランド図書館行政庁での「長期療養のための本の処方箋プロジェクト」採用率のデータはなし

参照：The Reading Agency and Society of Chief Librarians. Reading Well Books on Prescription: Evaluation of Year 4 – 2016/17. 2017.10

本の処方箋プロジェクトは、2013年6月に、「メンタルヘルスのための本の処方箋」からはじまった。メンタルヘルスの専門家によって認定された「セルフヘルプのための読書」へのアクセスを提供することによって、メンタルヘルスマネジメントをサポートするプロジェクトである。まず、メンタルヘルスの専門家によって、メンタルヘルスに関する30タイトルが選ばれ、推薦本リストとしてパンフレットに掲載された。

このパンフレットは、下記のような流れで、メンタルヘルスの専門家と図書館が協働し、活用されている。

- ①家庭医、カウンセラー、セラピストなどのメンタルヘルスの専門家は、パンフレットに掲載された推薦本リストのなかから、クライアントに適切であると判断したタイトルにチェックをつけ、クライアントに手渡す。
- ②クライアントは、チェックがつけられたパンフレットを図書館に持っていき、「処方」された本を図書館で借りる。
- ③あるいは、このパンフレットに掲載されている本は図書館に配架されているので、直接図書館に行き、自分で本を選ぶこともできる。

同プロジェクトは、読書協会 (The Reading Society) が、家庭医学会 (Royal College of General Practitioners)、精神科医学会 (Royal College of Psychiatrists)、英国看護学会 (Royal College of Nursing)、イギリス心理学会 (The British Psychological Society) などの学会とともに推進する認知行動療法プログラムとして立ち上げられた。認知行動療法とは、気分や行動がものの考え方や受け取り方といった認知のあり方の影響を受けるという、気分や行動と認知の関係性に着目した精神療法である。認知のゆがみを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治癒することを目的とする。

この枠組みは、NHS 傘下の特別医療機構である国立医療技術評価機構 (National Institute for Health and Clinical Excellence: NICE) のガイドラインにそって組み立てられている¹²。NICE では、認知行動療法ベースの

セルフヘルプのための読書を、うつ病や不安症、恐怖症、摂食障害などの治療のファーストステップとしてとらえられている。

実施初年度の評価報告書『リーディング・ウェル本の処方箋プロジェクト評価報告書 2013/2014 (Reading Well Books on Prescription Evaluation Report 2013/14)』¹³では、同プロジェクトに関する下記のような調査結果が報告されている。

(1) 約 27 万 5 千人、イングランド人口の 0.7% が推薦本を利用した。

(2) 約 7 千人の家庭医やメンタルヘルスの専門家が、本の「処方者」として参加した。

(3) 利用者に対する調査結果は、下記のとおりである。

- ・推薦本を読んで役に立った：91%
- ・自らの状況がより理解できた：79%
- ・症状が軽減されたあるいは改善された：37%

(4) 「処方者」に対する調査結果は、下記のとおりである。

- ・同プロジェクトは患者に有用である：すべての処方者
- ・診察や相談の時間を縮小することができたと感じる：半数の処方者

また、「処方者」、つまりメンタルヘルスの専門家によって、無料の「公認された」健康情報の提供者としての公共図書館の役割が強く支持されており、将来的に、認知症や子どもや青少年のメンタルヘルスへの展開が期待されることについても言及された。このような結果を受け、2015 年に「認知症のための本の処方箋プロジェクト」、2016 年に「青少年のメンタルヘルスのための本の処方箋プロジェクト」、2017 年に「長期療養のための本の処方箋プロジェクト」が次々に立ち上げられた。

同プロジェクトは、単なる「推薦本リスト」にとどまらない下記のような特徴がある。

- a. 医療の専門家によって選書されたリストであること
- b. 数あるメンタルヘルス関連本のなかから、あえて少数のタイトル (30 タイトル) に絞っていること
- c. 認知行動療法の考え方をベースにしている

こと

d. NICE のガイドラインに沿って組み立てられていること

e. メンタルヘルスの専門家によって本が「処方」され、図書館によって本が「提供」されること

なお、本の処方箋プロジェクトの推薦本リストは、それぞれのプログラムに定められたプロトコルによって選書される。このプロトコルは毎年、検討される。

4.2 気持ちが上がる本プロジェクト

「気持ちが上がる本プロジェクト」は、読書や読書グループなど、一般の人が選ぶ「気持ちが上がる」本のリストを提供する全国的なプロモーションである。

現在公開されている推薦本リストは、下記のとおりである。

- ・ Chosen by young people (2017)
- ・ Chosen by reading groups (2016)
- ・ Chosen by people affected by cancer (2015)
- ・ Chosen by reading groups (2013)
- ・ Chosen by people affected by cancer (2013)
- ・ Chosen by reading groups (2012)
- ・ Chosen by older people
- ・ Chosen by young people

若年者、高齢者、読書グループ、がん患者などによって本が選ばれている。

図 1 は、「気持ちが上がる本プロジェクト」のポスターである。同プロジェクトに参加する図書館は、このポスターを掲げ、それぞれの推薦本リストに掲載されている本を独立したコーナーとして配架している。

最新の 2018 年のリストは、2018 年 10 月 8 日に公表される予定であり、現在、リストの作成作業が進められている。対象とされる本は、小説、ノンフィクション、詩、短編小説、伝記、料理本などさまざまなジャンルにわたるが、紙媒体で出版されていることが必要である。

推薦本リストに掲載する本は一般公募され、その中から、図書館員、読者、リーディング・エージェンシーのスタッフによって形成される審査会で選ばれる。

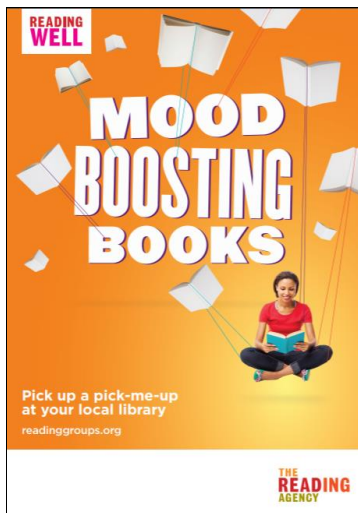


図1 「気持ちが上がる本プロジェクト」のポスター

4.3 「本の処方箋プロジェクト」と「気分が上がる本プロジェクト」の相違点

「気持ちが上がる本プロジェクト」は、推薦本リストを提供するという点で、「本の処方箋プロジェクト」と共通している。しかし、「気持ちが上がる」小説、ノンフィクション、詩などを中心としている点、専門家ではなく、読者や読書グループなどの一般の人によって本が選ばれている点において異なる。

「本の処方箋プロジェクト」は、「情報を得るための本」や「心へ作用する本」が対象とされているのに対し、「気持ちが上がる本プロジェクト」は、「心へ作用する本」に焦点が当てられているということもできよう。また見方を変えれば、「本の処方箋プロジェクト」は医療と図書館の異業種協働型プロジェクト、「気分が上がる本プロジェクト」は利用者参加型プロジェクトであるということもできる。

なお、これらのプロジェクトへの関与の仕方は、図書館によってさまざまである。例えば、「認知症にやさしい図書館」を標榜するサンダル図書館は、「認知症のための本の処方箋プロジェクト」の本のコーナーのみ設置している。一方、ノッティング・ヒル・ゲート図書館では、2016年の訪問時は、「認知症のための本の処方箋プロジェクト」の本のコーナーが設置されていたが、2018年の訪問時には、「認知症のための本の処方箋プロジェクト」の本のコーナーはなくなっており、代わりに「気分が上がる本プ

ロジェクト」の本のコーナーが設置されていた。当該図書館の図書館スタッフに尋ねたところ、特にテーマは決めず、ローテーションすることであった¹⁴。

5. 認知症のための本の処方箋プロジェクト

本章では、リーディング・ウェル・プログラムの中から、「認知症のための本の処方箋プロジェクト」に着目し、その推薦本や仕組みを概観するとともに、課題を明らかにする。

「認知症のための本の処方箋プロジェクト」は、「メンタルヘルスのための本の処方箋プロジェクト」に次ぐ本の処方箋プロジェクトとして、2015年1月より開始された。同プロジェクトでは、認知症国家戦略のもと、認知症の人やその介護者等に推奨する25タイトルの推薦本リストが提供されている。選書は、精神科医学会、アルツハイマー協会、イギリス心理学会などの認知症の専門家によって行われた。

5.1 認知症のための本の処方箋プロジェクトによる推薦本リスト

「認知症のための本の処方箋プロジェクト」による推薦本リストには、25タイトル¹⁵の本が掲載されている。数多くの認知症に関する本の中から、わずか25タイトルが選ばれたのは、利用者や「処方者」が迷わないため、あくまでも本への「入口」であるためということであった¹⁶。

それぞれの本は、「情報とアドバイス (Information and advice)」「認知症とともにある良い生活／人生 (Living well with dementia)」「家族や介護者の支援 (Support for relatives and carers)」「体験記 (Personal Stories)」の4つのカテゴリーに分類されている。表2は、各カテゴリー名とそのカテゴリーに含まれるタイトル数をまとめた表である。

「情報とアドバイス」はさらに、「正常な老化と記憶の問題」「認知症について」「子どもたちのために」の3つに分類されている。また、「認知症とともにある良い生活／人生」には、共有のための活動 (Activities to share) というカテゴリーの本が含まれている。例えば、このカテゴリーに含まれるシリーズ “Pictures to

Share series” は、現在、12 タイトル発行されている。旅行、庭、ショッピングなど、テーマごとの写真や絵がおさめられており、回想法などにも利用することができるシリーズである。

表 2 認知症のための本の処方箋プロジェクトによる
推薦本のカテゴリー

カテゴリー名	タイトル数
情報とアドバイス	7
認知症とともにある良い生活／人生	5
家族や介護者の支援	6
体験記	7

以下、認知症のための本の処方箋プロジェクトによる推薦本の書誌リストをあげる。

A. 情報とアドバイス (Information and advice)

A-1. Normal ageing and memory problems

- (1) Introduction to the Psychology of Ageing for Non-specialists by Ian Stuart-Hamilton, published by Jessica Kingsley

Publication date: 31 March 2014 Extent: 240 pages, Other formats: Ebook, Audiobook

- (2) Coping with Memory Problems by Sallie Baxendale, published by Sheldon Press
Publication date: 20 March 2014 Extent: 128 pages, Other formats: Ebook

A-2. About dementia

- (1) Alzheimer's and Other Dementias: Answers at Your Fingertips by Alex Bailey, published by Class Health

Publication date: 30 September 2014 Extent: 280 pages, Other formats: Ebook

- (2) A Pocket Guide to Understanding Alzheimer's Disease and Other Dementias by Nori Graham and James Warner, published by Jessica Kingsley

Publication date: May 2018 Extent: 160 pages

- (3) ABC of Dementia by Bernard Coope and Felicity Richards, published by John Wiley

Publication date: 11 April 2014 Extent: 74 pages, Other formats: Ebook

- (4) About Dementia: For People with Learning Disabilities by Karen Dodd, Vicky Turk and Michelle Christmas, published by BILD Publications

Publication date: 11 February 2005 Extent: 12 pages

A-3 For children

- (1) Grandma by Jessica Shepherd, published by Child's Play

Publication date: 27 January 2014 Extent: 32 pages

B. Living well with dementia

- (1) First Steps to Living with Dementia by Simon Atkins, published by Lion Books

Publication date: 15 February 2013 Extent: 98 pages Other formats: Ebook, Large print

- (2) Dementia Positive by John Killick, published by Luath Press

Publication date: 15 December 2014 Extent: 192 pages, Other formats: Ebook

- (3) Hearing the Person with Dementia: Person-Centred Approaches to Communication for Families and Caregivers by Bernie McCarthy, published by Jessica Kingsley

Publication date: 15 February 2011 Extent: 112 pages Other formats: Ebook

Activities to share

- (1) Chocolate Rain: 100 Ideas for a Creative Approach to Activities in Dementia Care by Sarah Zoutewelle-Morris, published by Hawker, Publication date: 1 January 2011

- (2) Pictures to Share series (various titles) by Helen Bate, published by Pictures to Share

Publication date: 2008–2013 Extent: 48 pages

- Beside the Seaside in Pictures
- Childhood Days in Pictures
- The Countryside in Pictures
- Family Life in Pictures
- A Funny Old World in Pictures
- In the Garden in Pictures
- Pets in Pictures
- Proverbs and Sayings
- Shopping in Pictures
- A Sporting Life in Pictures
- Travelling in Pictures
- A World of Work in Pictures

C. Support for relatives and carers

- (1) When Someone You Love has Dementia by Susan Elliot-Wright, published by Sheldon Press

Publication date: 21 January 2010 Extent: 128 pages, Other formats: Ebook

- (2) And Still the Music Plays: Stories of People with Dementia by Graham Stokes, published by Hawker

Publication date: 1 September 2010 Extent: 244 pages

- (3) Can I Tell You about Dementia? A Guide for Family, Friends and Carers by Jude Welton, published by Jessica Kingsley

Publication date: 28 February 2013 Extent: 48 pages, Other formats: Ebook

- (4) Dementia: Support for Family and Friends by Dave Pulsford and Rachel Thompson, published by Jessica Kingsley
- Publication date: 15 November 2012 Extent: 240 pages, Other formats: Ebook

- (5) 10 Helpful Hints for Carers: Practical Solutions for Carers Living with People with Dementia by June Andrews, published by University of Stirling, Dementia Services Development Centre
- Publication date: 14 September 2009 Extent: 55 pages

- (6) Seeing Beyond Dementia: A Handbook

for Carers with English as a Second Language by Rita Salomon, published by Radcliffe Publishing

Publication date: 28 December 2013 Extent: 112 pages, Other formats: Ebook

D. Personal Stories

- (1) Dancing With Dementia: My Story of Living Positively with Dementia by Christine Bryden, published by Jessica Kingsley

Publication date: 15 February 2005 Extent: 200 pages, Other formats: Ebook

- (2) Dear Dementia: The Laughter and the Tears by Ian Donaghy, published by Hawker

Publication date: 16 June 2014 Extent: 104 pages

- (3) Still Alice by Lisa Genova, published by Simon & Schuster

Publication date: 16 December 2014 Extent: 400 pages, Other formats: Ebook, Audiobook

- (4) Losing Clive to Younger Onset Dementia: One Family's Story by Helen Beaumont, published by Jessica Kingsley

Publication date: 15 November 2008 Extent: 160 pages, Other formats: Ebook

- (5) Telling Tales About Dementia: Experiences of Caring by Lucy Whitman, published by Jessica Kingsley

Publication date: 15 October 2009 Extent: 224 pages, Other formats: Ebook

- (6) The Little Girl in the Radiator: Mum, Alzheimer's and Me by Martin Slevin, published by Monday Books

Publication date: 1 August 2012 Extent: 256 pages, Other formats: Ebook

- (7) But Then Something Happened: A Story of Everyday Dementia by Chris Carling, published by Golden Books

Publication date: 30 July 2012 Extent: 240 pages, Other formats: Ebook

紙媒体で出版されている本が対象とされているが、25タイトルのうち17タイトルが電子書籍でも、2タイトルがオーディオブックとしても、1タイトルが大活字本としても出版されている。

実用書だけでなく、回想法などに使うことができるピクチャーブックや、体験記、小説、子供向けの絵本などがリストに含まれている。

同プログラムのパンフレット（図2）には、これらの推薦本リストがチェックリストとして掲載されている。また、本を「処方」した医療従事者の名前、肩書、更なる情報やおすすめ、サインなどを書き込める欄が設けられている。

「処方」された本は、公共図書館で借りることができる。本を「処方」された人が、図書館利用者として登録されていない場合は、このパンフレットに名前と住所を書いて図書館へ提出するだけで利用者登録を行うことができる。図書館を利用したことがなくても、スムーズに当該本を借用できる仕組みになっており、新規利用者開拓にもつながっている。

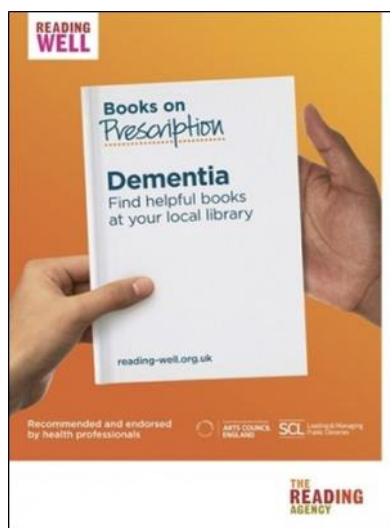


図2 「認知症のための本の処方箋」プロジェクトのパンフレットの表紙

5.2 認知症のための本の処方箋プロジェクトの課題

本節では、リーディング・エージェンシーの同プロジェクト担当者および、同プロジェクトを導入している「認知症にやさしい図書館」を

標榜するサンダル図書館の図書館員へのインタビュー調査の結果から、同プログラムの課題を述べる。

(1) 推薦本リストの改訂頻度

認知症のための本の処方箋プロジェクトは、2015年1月の開始以降、現在（2018年9月）まで、同じ推薦本リストが使用されている。つまり、プロジェクト開始以降、3年以上もの間、タイトルの見直しや、新しい出版物の反映が行われていないということである。

現在、新しい推薦本リストの準備をしているとのことであるが、特に新刊本が次々と出版されている領域において、カレントアウェアネスの視点が欠けていると言わざるを得ない。

なお、各タイトルが絶版にならないよう、それぞれの出版社と交渉しているとのことであった。

(2) 推薦本の難易度

一方、本の内容についても課題が浮かび上がった。推薦本リストに掲載されている本が難しすぎるという図書館からの報告があるというのである¹⁷。実際のところ、特に認知症に関する本の中に、難しい本が含まれているという利用者の声があるとのことであった¹⁸。

推薦本リストは、一義的には認知症の人やその家族、介護者を対象としているところから、内容の正確さだけでなく、読みやすさの観点が重要である。なお、改訂予定の推薦本リストは、難易度も考慮に入れるとのことであった。

(3) プロジェクト名称

また、「本の処方箋プロジェクト」という名称そのものにも課題があるとのことであった。

「本の処方箋」という言葉は、インパクトがある一方で、「処方されれば病気や症状が治る」という誤解を招きかねないという。そこで、今後は「処方箋」という言葉を使用しないことも考えたいということであった¹⁹。

実際のところ、本の処方箋プロジェクト第1弾である「メンタルヘルスのための本の処方箋プロジェクト」は、今年（2018年）、その名称が変更された。同プロジェクトの推薦本リストの改訂にあわせて、プロジェクトの名称そのも

のが変更されたのである。図 2 は、改訂前(2015 年当時)の「メンタルヘルスのための本の処方箋プロジェクト」のパンフレットであり、図 4 は、改訂後(2018 年)のものである。パンフレットの表紙から、「処方箋」の文字が消えていることが確認できる。



図 3 改訂前(2015 年当時)の「メンタルヘルスのための本の処方箋」プロジェクトのパンフレットの表紙

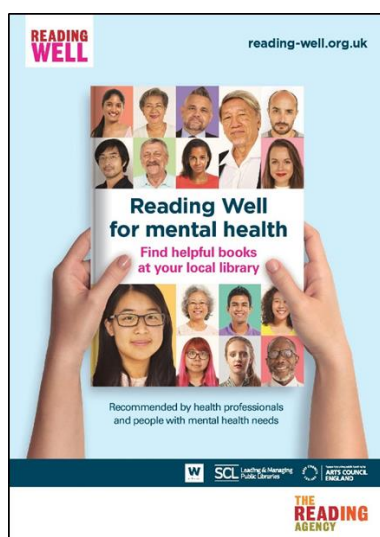


図 4 改訂後(2018 年現在)の「メンタルヘルスのための本の処方箋」プロジェクトのパンフレットの表紙

6. 図書館における認知症サービス

本稿では、図書館における認知症サービスについて考察を行うことを目的として、先導的な英国の図書館の認知症に関する取り組みとし

て、リーディング・ウェル・プログラムの中から「認知症のための本の処方箋プロジェクト」を取り上げた。

同プロジェクトは、医療と図書館の協働プロジェクトであり、「読書」を中心としているところに特徴がある。認知症サービスは、ひとつの領域のみで完結することが難しく、医療や介護、福祉など、さまざまな領域と協働・連携することが不可欠である。同プロジェクトは、認知症の専門家である医療従事者が本を「処方」し、本の専門家である図書館(員)が本を「提供」といった形で、認知行動療法の考え方のもとに協働することによって、より信頼性の高い、効果的なサービスを実現することができているといえる。

また、医療の主題知識がない図書館員にとって、認知症に関する本を選書することは、困難を伴う。これは、認知症にかかわらず、医療健康情報全般にいえることだろう。同プロジェクトでは、医療の専門家が選書することによって、この問題を解決した。一方で、「推薦リストに掲載されている本が難しい」という指摘は、医療の専門家が選ぶことによっておこる弊害であると考えられる。この弊害は、医療の専門家だけでなく、本の専門家である図書館員が選書に加わることによって、軽減できるのではないだろうか。

一方で、どのくらいの頻度で推薦本リストの改訂を行うのが適切かという問いがある。同プロジェクトでは、3 年以上、推薦本リストの改訂が行われていない。次々に新刊本が刊行されている領域において、3~4 年に 1 度という改訂頻度は低すぎると言わざるをえない。しかし、「処方箋」が紙媒体で実施されている以上、頻繁に改訂することが難しいことは容易に想像がつく。この問題は、「処方箋」をデジタル化することによって、ある程度解消することができるのではないかと考えられる。

現在、「超高齢社会と図書館研究会」では、「認知症のための本の処方箋プロジェクト」を進行中である。英国のリーディング・ウェル・プログラムに着想を得たものであるが、上記の英国の「本の難易度」「推薦本リストの改訂頻度」などの問題が起こらないよう構想しつつある

ため、似て非なるプロジェクトになる予定である。「超高齢社会と図書館研究会」による同プロジェクトについては、稿を改めたい。

引用文献

- ¹ Alzheimer's Disease International. World Alzheimer Report 2015: The Global Impact of Dementia: An analysis of prevalence, incidence, cost and trends. August 2015. <https://www.alz.co.uk/research/WorldAlzheimerReport2015.pdf> [確認: 2018 年 8 月 8 日]
- ² Dementia Friendly には, 「認知症にやさしい」のほか, 「認知症の人にやさしい」「認知症フレンドリー」などの訳語が当てられることがあるが, 本稿では, 「認知症にやさしい」という表現を使用する。
- ³ 河野禎之. 社会的課題としての認知症: 認知症にやさしいまちづくり. 作業療法ジャーナル, 52(1), 62-66, 2018.1
- ³ 超高齢社会と図書館研究会「認知症にやさしい図書館ガイドライン」超高齢社会と図書館研究会, 2017.10
<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~donkai.saori.fw/a-lib/guide01.pdf> [確認: 2018 年 8 月 1 日]
- ⁴ 超高齢社会と図書館研究会「認知症にやさしい図書館ガイドライン」超高齢社会と図書館研究会, 2017.10
<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~donkai.saori.fw/a-lib/guide01.pdf> [確認: 2018 年 8 月 1 日]
- ⁵ Department of Health, UK. Living well with dementia: A National Dementia Strategy. Department of Health, 2009
- ⁶ 日本語訳については, 下記を引用した。
西田淳志「英国の認知症国家戦略」『海外社会保障研究』2015, 190, p.6-13
- ⁷ Alzheimer's Research Trust. Dementia 2010: The economic burden of dementia and associated research funding in the United Kingdom, 2010
- ⁸ 2018 年 6 月に設置された Library Connected に引き継がれた。
- ⁹ 現在は, Reading, Information, Digital, Health, Learning and Culture, Children's promise, Six Steps (視覚障害者)
- ¹⁰ The Reading Agency and Society of Chief Librarians. Reading Well Books on Prescription: Evaluation of Year 4 – 2016/17. 2017.10
- ¹¹ The Reading Agency and Society of Chief Librarians. Reading Well Books on Prescription: Evaluation of Year 4 – 2016/17. 2017.10
- ¹² Common mental health disorders [CG123],

Commissioning stepped care for people with common mental health disorders. [CMG41], Depression [CG90], Generalised anxiety disorder and panic disorder (with or without agoraphobia) in adults [CG113], Anxiety [CG113], Eating disorders [CG9], Chronic Fatigue Syndrome/Myalgic encephalomyelitis [CG53], Obsessive compulsive disorder (OCD) and body dysmorphic disorder [CG31] and Forthcoming social anxiety disorder guideline [CG159]

- ¹³ Leading & Managing Public Libraries, Arts Council England, The Reading Agency. Reading Well Books on Prescription Evaluation Report 2013/14. 2014
- ¹⁴ 2018 年 3 月 3 日, ノッティング・ヒル・ゲート図書館での現地調査による。
- ¹⁵ 正確には, 24 タイトと 1 シリーズ
Pictures to Share series には, 12 タイトルのピクチャーブックが含まれる。
- ¹⁶ 2018 年 3 月 8 日, リーディング・エージェンシーの本の処方箋プロジェクト担当者へのインタビュー調査による。
- ¹⁷ 2018 年 3 月 8 日, リーディング・エージェンシーの本の処方箋プロジェクト担当者へのインタビュー調査による。
- ¹⁸ 2018 年 3 月 8 日, サンドル図書館の図書館員へのインタビュー調査による。
- ¹⁹ 2018 年 3 月 8 日, リーディング・エージェンシーの本の処方箋プロジェクト担当者へのインタビュー調査による

[受理 : 2018 年 9 月 30 日]